慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	小特集 : 経済学会コンファレンス : 社会規範と進化についてのコンファレンス
Sub Title	序 Preface
Author	グレーヴァ, 香子
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1998
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.91, No.1 (1998. 4) ,p.83- 85
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小特集 : 社会規範と進化についてのコンファレンス
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19980401-0083

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「三田学会雑誌」91巻1号（1998年4月）

小特集：経済学会コンファレンス
社会規範と進化についてのコンファレンス*

(1) はじめに

1997年度経済学会コンファレンス「社会規範と進化についてのコンファレンス」は5月9，10日の両日，慶應義塾大学北新館で行われた。コンファレンスには塾内はもとより，国内外の研究者約80名が参加し，多くの討論が行われた。近年のゲーム理論の発展の中でも重要な分野になっている社会規範の成立の問題や，進化を中心テーマにしたが，関連した様々なトピックについても最新の論文の発表と討論が行われ，幅の広い議論ができたことは有意義であったと思う。

本小特集に収録されたものは，報告論文のうち4編である。発表された論文のほとんどが英語であったため，翻訳などの労と過誤のリスクを考え，日本人発表者の方々に自分の論文を日本語で要約していただくことにした。ご協力いただいた関係者の方々，またコンファレンスの共同主催者である筑波大学の松井彰彦氏には紙面を借りて感謝したい。

(2) プログラム

5月9日（金）

2：00-2：10　開会の辞　川又邦雄（経済学会委員長）

2：10-3：00　グレーヴァ香子（慶應義塾大学），“Repeated Games with Outside Offers: Structure of Trigger Strategy Equilibrium Payoffs”

3：10-4：00　西條辰義（大阪大学），“Emergence of Cooperation”（南カリフォルニア大学 Timothy Cason 氏，東京都立大学大和毅彦氏，住宅金融公庫横谷好氏との共同論文）

4：30-5：20　Ken Binmore (University College London), “The Evolution of Fairness Norms”

---

* 本コンファレンスは東京経済研究センター（TCER）との共催として，開催された。TCER 会長の吉野直行先生他の関係者の方々に感謝する。

5：30-6：20　速水佑次郎（青山学院大学），"Community Mechanism of Employment and Wage Determination: Classical or Neoclassical?"

5月10日（土）

10：00-10：50　瀧澤弘和（東洋大学），"Procedural Rationality, Nash Equilibrium, and Focal Points"（東京大学大学院清水崇氏との共同論文）

11：20-12：10　松島斉（東京大学），"Procedural Rationality and Inductive Learning: Toward a Theory of Subjective Games"

2：00-2：50　David Schmeidler (Tel Aviv 大学, Ohio State 大学), "Case-Based Knowledge and Induction"

3：00-3：50　George Mailath (Pennsylvania 大学), "Your Reputation is Who You are not, Not Who You are"

4：20-5：10　Andrew Postlewaite (Pennsylvania 大学), "The Social Basis for Interdependent Preferences"

5：20-6：10　Roger Lagunoff (George Washington 大学), "A Theory of Constitutional Standard of Behavior"

(3)　コンファレンス発表論文の概略

第1日は社会規範がメイン・テーマとなった。グレーヴァはくり返しゲームで一方のプレーヤーが関係を断ち切ってゲームへの参加を中断することができるとしたときの均衡の特徴づけを行った。次の西條は社会に参加するか否かの意思決定をプレーヤーができるとしたときに従来の公共財の供給問題がどのように変更されるかを分析，実験結果との比較を行った。Binmore は公正という概念がどのように発生，進化したか，という問題に関する諸研究を概観した。速水はフィリピンの農村部における社会規範の変容に関して，彼自身の現地調査を踏まえて分析した。

第2日はより進化の問題に焦点を当てた報告がなされた。瀧澤は Recursive Theory を用いて，人々が協調行動を採るためにはときとして，計算不能な「神託」と呼ばれている徴しが必要であるという議論を展開した。松島は人々が過去の情報を忘れ（無視し）かつゲームの構造を学んでいくような状況を分析した。このときある程度のノイズがあると各人は自己のマクシミン戦略を採るよ

うになり，かつこのとき各人は自分自身は他の戦略を強支配するような戦略を採っていると思い込む，という結論を導出した。午後に入り，Schmeidler は過去との類推で現在の問題を解き知識を獲得していくような意思決定主体の行動を理論化した。Mailath は人々の信用がどのように獲得されていくかという過程を相手が自分を悪いタイプかもしれないと思っているケースとよいタイプと思っているかもしれないケースとを比較する形で分析し，信用の蓄積には自分が何であるかではなく，何でないかを示すことが困難であると同時に重要であると結論づけた。Postlewaite は人々の選好が社会的に決定されるという説を展開した。最後に Lagunoff は国家において逸脱行動に対し，ある種の寛容的態度を示すのはなぜかという問題を spatial competition の枠組みで考察，その動学問題とも絡めて議論を行った。

グレーヴァ香子
（経済学部助教授）